

就今度来嶋逆心之企、  
御方之事、被対申通直、以無  
二之御覚悟、<sup>(村上)</sup>武吉被仰談之、  
此方御一味之段、寔累年無  
御等閑之辻被引合、御入魂之  
至更々難申尽候、殊度々御  
動御粉骨之次第、本望  
大慶此事情、於悴家永不可  
令忘却候、猶以御馳走所  
仰候、隨而太刀一振・刀一腰  
金作・具足甲令進之候、表御  
祝詞計候、將又此表之事、  
<sup>(秀吉)</sup>羽柴和平之儀申之間、令同  
心無事候、先以互引退候、然  
如**信長父子三人事、於京都**  
**生害之由其聞候、不慮吉事**  
此事情、猶庄原兵部丞可申候、  
恐々謹言、  
(天正十年) 輝元(花押)  
六月八日  
村上掃部頭殿 御宿所

「毛利輝元書状」(村上文書8)

## 書状～天下の趨勢を報せる～

### 《書状》

文字によって自分の意思を他者へ伝える場合、現在ではEメールなど様々な方法がありますが、かつては書状がオーソドックスな手段でした。

ここでは、天下を揺るがした2つの事件にまつわる書状を紹介します。

### 《「信長死す」の報》

時は天正10年(1582)6月2日。東は関東まで勢力を広げ、西は中国の毛利氏との対決に臨もうと安土(現滋賀県近江八幡市。信長の居城地)から京都に到着していた織田信長。その信長を、毛利攻めの援軍を命じられていた明智光秀が襲い、自害に追い込む大事件が発生します。世に言う「本能寺の変」です。この事件により、信長と後継者の信忠ら3名がこの世を去り、織田政権は混乱に陥ります。

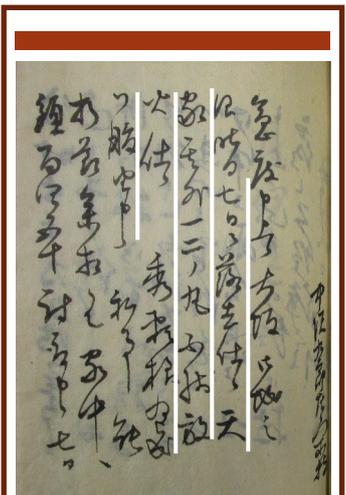
その信長と対峙していた毛利氏。信長の家臣・羽柴秀吉による備中高松城(現岡山市)への水攻めに対して救援に赴くも思うに任せず、劣勢に立たされています。

た。ところが秀吉から停戦の提案がもたらされます。交渉を繰り返した結果、城主清水宗治の降伏・自刃、それとひきかえに城兵の助命、領土の割譲などを条件として交渉は成立しました。6月4日、宗治は自刃。翌日、秀吉は東に向かって備中の地を後にします。

さて、信長の死を毛利氏はいつ知ったのでしょうか。6月5日とする説もありますが、正確な日にちはわかりません。

上の写真は6月8日付けの毛利輝元の書状です(村上元吉宛)。文中には「信長父子三人事、於京都生害之由」(傍線部)とあって、輝元が少なくとも本能寺の変6日後には信長自刃の情報を把握していたことが窺えます。「信長死す」の報は、わずかの時間で、混乱する京都を発し、織田方である地域をかくぐって毛利氏のもとにたどり着いたのでした。その報を携えた人物の苦難の道が想像されます。

なお、この時の輝元は、信長の死を「不慮吉事」と喜んでいました。輝元の驚きと安堵感が伝わるひとことです。



毛利家文庫22諸臣15  
「閩閩録遺漏」より

上の写真は、慶長20年5月8日付けの毛利秀元の書状(写)です。当時、秀元は大坂の戦場にいました。ここでも7日には勝敗が決し、天守ほか一・二ノ丸が放火され、秀頼様はお腹を召した(=切腹した)ようだ、とあります(傍線部)。

### 《豊臣氏滅亡》

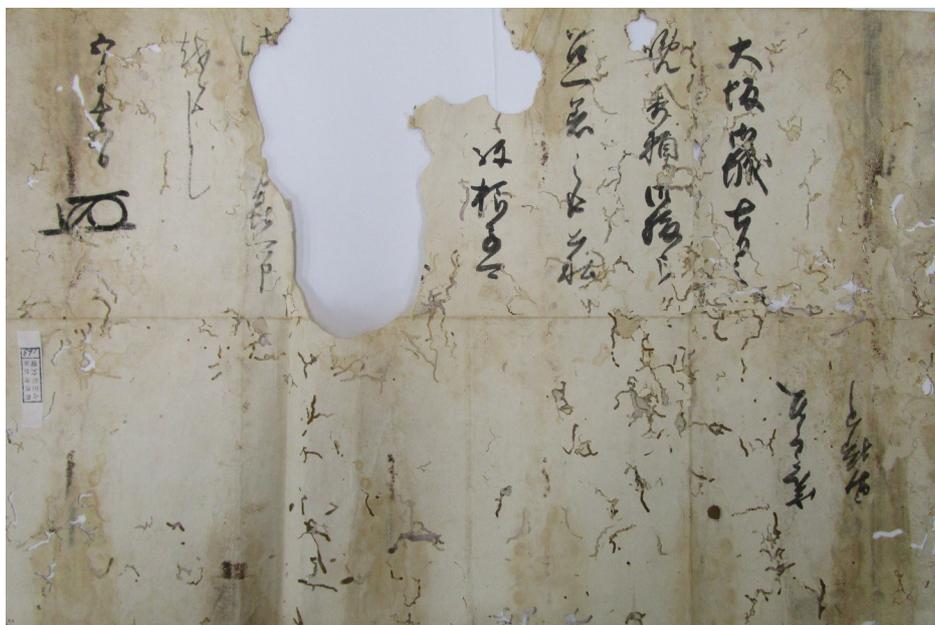
もうひとつは、慶長20年(1615)に起こった、大坂夏の陣に関する書状です。

徳川氏と豊臣氏の対立が決定的となった慶長19年、大坂冬の陣が勃発します。豊臣氏の籠もる大坂城を徳川氏率いる全国の諸大名が包囲するものの、秀吉が心血を注いだ天下の名城を落とすことは叶わず、両者は一旦講和します。

講和によって大坂城の堀は埋め立てられ、翌年、再戦へと至りました。これが大坂夏の陣です。防禦機能を著しく失った大坂城。真田信繁ら豊臣恩顧の諸将の奮戦もありましたが、天下の大軍を前に次第に抵抗も弱まり、ついに5月8日、城主豊臣秀頼とその母淀君らは自害し、豊臣氏は滅亡してしまいました。

さて、秀頼母子の自害を「5月8日」としましたが、下の写真には「大坂御城、七日之晩秀頼御腹被召一着之由」(大坂城では、七日の晩に秀頼が切腹して勝敗がついたとのことだ)とあります。遠方にいた毛利輝元には、「5月7日秀頼切腹」と誤って情報が伝わったのでしょうか。

これはあながち「誤報」と片付けられないようです。この戦場にいた毛利秀元も、「昨日七日ニ落去仕候、天守其外一・二ノ丸不残放火仕候、秀頼様為被成(召か)御腹由申候」との風聞があったと伝えています(前頁コラム参照)。戦場ではこの日(5月7日)に天守が炎上し、城主・秀頼も切腹したと言われていたのです。燃え上がる天守を目の当たりにすれば、城主は自害したと思うことは当然だったかもしれません。輝元に「秀頼自刃」の報を伝えた人物も、きっと同様な認識で主君に最新情報をもたらしたのではないのでしょうか。実際の秀頼たちは、7日は城内の蔵に身を潜め、翌日自害しました。



毛利輝元(宗瑞)書状(今川家文書163)

大坂御城七日之	晩秀頼御腹被	召一着之由、公私	(大慶)	■ 候、弥様子可	(申越候、今度之儀)	■ 〃	■ 〃	■ 〃	■ 〃	(筈二不合、残多儀)	■ 〃	■ 〃	■ 〃	■ 〃	(事候)	此 ■ 〃、万喜可申	越候、かしく、	五月十五日	(宗瑞花押)	(宍道元兼)	穴主殿	(井原元忠)	伊掃部	※この資料は破損が甚だしいため、欠損部分は『萩藩閥閥録』巻二・六七二頁を参照しました。
---------	--------	----------	------	----------	------------	-----	-----	-----	-----	------------	-----	-----	-----	-----	------	------------	---------	-------	--------	--------	-----	--------	-----	---